

υἱός Θεοῦ

ヒュイオス セオー

知っておきたいキリスト教のことば (42)

神の子 かみのこ

「神の子」は、イエス様の称号の一つです。イエス様はダビデの子や主、先生やキリストと呼ばれていました。そして悪霊や汚れた霊によって「神の子」と呼ばれます。また十字架上で息を引き取られた時には、異邦人である百人隊長から「本当に、この人は神の子だった」と言われます。

イエス様は聖書の中で、ご自分のことを「神の子」だとは言ってはいません。しかし神さまのことを「アッバ、父」と呼びます。ということは、神さまと父子の関係であるということです。

旧約聖書の中にも神の子とされる人たちは出てきます。イスラエル国家やダビデ、そして王たちはそのように呼ばれます。しかしイエス様が来られたことによって、その称号はイエス様一人のものになってしまったようにも思えます。

しかしパウロはガラテヤの信徒への手紙の中でこのように言います。

「あなたがたは皆、信仰により、キリスト・イエスに結ばれて神の子なのです。」(ガラテヤの信徒への手紙 3章 26 節)

神の子とは、神さまと一緒に神さまのみ心を行う者です。だとしたら、わたしたち一人ひとりも、間違いなく神の子なのです。

イエス様は祈る時には、「父よ」という呼びかけをするようにと教えられました。わたしたちは神さまの子として、神さまのご用をおこなうように、それぞれの場所に遣わされています。そのことを忘れないようにしたいですね。

そしていつも、神さまは見守ってくださることを、あわせておぼえていたいと思います。

次回は「神の小羊」です。お楽しみに。



「聖家族」

クラウディオ・コエリョ

(1642-1693 年)

百人隊長がイエスの方を向いて、そばに立っていた。そして、イエスがこのように息を引き取られたのを見て、「本当に、この人は神の子だった」と言った。

(マルコによる福音書 15章 39 節)

